

電子書籍と紙読み比べよう

今、話題となっている電子書籍の端末に触れて、紙の本との読み比べができる「e読書ラボ」（東京・千代田区）が人気を呼んでいます。

e読書ラボは、古書店が並ぶ本の街・神田神保町にある「本と街の案内所」に、国立情報学研究所・連想情報学開発センターが9月末に開設。市販されている端末13台が置かれていて、これから購入しようとしている人の「体験シヨールーム」としてにぎわっています。

棚には、端末で読める紙の本約300冊が並んでいます。その一つ、『世界で一番美しい元素図鑑』（創元社）を読み比べてみました。端末の場合、画面は1辺27センチ。紙の本よりも小さくなりますが、元素の画像に触れると動くので楽しい

東京・神田神保町の「本と街の案内所」

「e読書ラボ」

気分になります。

同センター特任助教の阿辺川武さん（37）によると、端末は、カラー写真集などがきれいに映る液晶ディスプレイと、目が疲れにくく文字主体の本が読みやすい電子ペーパータイプがあります。

『ナルニア国物語』なども読み比べてみた結果、電子書籍は持ち運びに便利で、文字の大きさを変えることができる点などが長所と実感。一方、紙の本はパラパラとめくって読みたい場面を探しやすく、小説を手にとって読むときなどは、未知の世界への好奇心をかき立てる力が大きいと思いました。

阿辺川さんは「電子書籍、紙の本には、それぞれの良さがあります。長所をうまく取り入れて、読書を楽しんでほしいですね」と話していました。

本と街の案内所は、午前11時半～午後6時（日曜・祝日と、年末年始の12月25日～1月9日は休み）、入場無料。

△ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班Ⅱ小5・田村輝、中2・工藤菜緒子、高1・高原玲央、高2・中村晴香記者▽



電子書籍の端末に触れて、紙の本と読み比べてみるジュニア記者（奥は、説明する阿辺川さん）